

# よ 読む、書く、聞く、話す力 朝小で あさしょう



読んだ記事の中からクイズを出し合います＝どれも千葉県佐倉市のIB早稲田ユーカーリが丘校



みんなの前で大きな声で音読します

千葉県を中心に展開する学習塾「IB早稲田」(株式会社IBジャパン、本社・千葉県船橋市)では、朝小を活用する講座が人気です。「読む」「書く」「聞く」「話す」の言語の四つの技能が高まり、学校のテストや模範試験、検定などに効果がみられると、市ユーカーリが丘校をたずねました。

(森島龍)

小3、小6の子もたち8人の席の前がちがう日付の朝小がおかれ、「ニュースあれこれ」を読み始めます。1分たつごとに回し読みすること4回、その中から気に入った記事の一つを選び、みんなの前で音読します。

次に、子ども同士でクイズを出し合います。「ハワイでオスプレイが着陸失敗」のニュースを選んだ水落紳太郎くん(6年)が「着陸に失敗した機種はどこに配備しているものと同じ?」と質問すると、子どもたちはいつせいに手を挙げます。教務担当の河津未菜さんは「答えは普天間飛行場ですが、発表者はポイントを押さえているか、聞き手はちゃんと聞いているかを見ます」。

さらに、知らない言葉

## 千葉の学習塾が講座



①真剣な表情で黙読します②どう要約すればいいか考え、丁寧に書いていきます

を国語辞典で調べながら新聞記事を書き写し、ポイントを知くまとめます。感じたことや考えたことなども書き加え、再

講座開講は2011年。「国語の成績が心配」という保護者の声が多く、思いついたのが朝小の活用でした。子どもたちは最初、ニュースの言葉が頭に入らずに聞き逃すことが多く、クイズを加えたり、メモをとらせたりして工夫。①回し読み(読む)②模写・要約(書く)③クイズ(聞く)④音読・発表(話す)と4技能を高める講座とし

て完成しました。模範試験の成績が飛躍的に伸びたり、検定合格につながったりするケースも増え、保護者の評判が高まり、小学生の塾生が増えたそうです。

堀愛華さん(6年)は「学校での国語の成績がすべて『大変良い』になりました」。1年生の時から通う木谷太一くん(3年)は「首都圏模試センターの公開テストの国語で満点を取りました。西村幹大くん(5年)は、学校で「音読が上手だ」とほめられることが増え、県の学力検査で高得点を取り自信を深めています。

塾では朝小の1面しか活用しないため、自宅で購読する子もいます。「蟹江陽菜さん(4年)は「いろいろな話題が紹介されていて、弟と一緒に音読したりニュースについて意見を言い合ったりしています」と話します。

IBジャパン部長の井上由佳さんは「試行錯誤の末に今の形に落ち着きました。成績が上がるだけでなく、知らない言葉やニュースに関心をもちようになりました」と話しています。